



「比和自然科学博物館だより」として、新情報や収蔵展示資料の紹介などをしていきます。紹介した展示資料が館内のどこにあるのか、探してみると楽しいですよ！

※展示標本と写真の個体は同じではない場合がありますので、ご了承ください。

## 今月の推し虫

和名:アオカタビロオサムシ

学名: *Calosoma cyanescens*

オサムシ類には後翅が退化して飛べないものが多く見られますが、カタビロオサムシ類は後翅が発達しており、飛ぶことができます。カタビロオサムシはこの後翅を使って樹上で生活し、チョウ目幼虫を捕食しているようです。

アオカタビロオサムシは、本州中部以北と北海道に分布し、国外ではシベリアから朝鮮半島にかけてアジア大陸東部に広く分布しています。西日本は分布域に含まれませんが、庄原市高野町では1960～1961年に灯火に飛来した3個体のみが知られており、その後の追加記録はありません。当博物館にはそのうち1頭の標本が収蔵されています。なぜ、本来の分布域からかけ離れた高野町で採集されたのか不思議ですが、飛び離れた分布をしているヒメシロチョウの例もあり、かつて寒冷な中国山地の脊梁部に分布

していた個体群が、しだいに勢力を縮小して絶滅した可能性も考えられます。

よく似たクロカタビロオサムシも広島県に分布していますが、こちらは県内各地で時折発見されています。アオカタビロオサムシは、頭部や前胸背に密な点刻があること、前胸背側縁が後方で丸くなることなどで区別できます。名前のおり緑～銅色を帯びますが、色彩はそれほど明瞭ではありません。広島県産の標本は非常に貴重なため、展示している標本は県外産の個体です。

【解説：秋山美文（比和自然科学博物館客員研究員）】

